お元気ですか！ 志村 たかよしです

第588号　2012年4月22日

日本共産党中央区議団
中央区　築地 1－1－1
電　話 3546-5563
FAX 3546-9570

とんでもない！

企画部長（都からの派遣）が 豊洲土壌汚染対策について 都への確認を拒否

4月12日の企画総務委員会で、私（志村）は、築地市場を移転させようとしている豊洲の土壌汚染問題について取り上げました。

新たな土壌汚染が判明

これまで東京都が「汚染の可能性が低い」として調査してこなかった有楽町層の汚染が判明しました。環境の専門家や都民が「汚染している」と指摘してきた地層です。

今回の場所は、汚染地域のヘリの部分ですが、今後、深刻な汚染場所から新たな汚染結果が出る可能性は非情に高くなりました。

ボーリング調査を視察＝08年5月

スケジュールへの影響は

土壌汚染対策工事について専門家会議は「122万立方メートルの土壌を入れ替え浄化する」と方針を出していたのですが、都は29万4千立方メートルに限定した対策で済まそうとしました。

今回、新たな汚染土壌を処理するため、移転スケジュールへの影響は必至だと思われますが、都は「想定内」だとしています。

新たな汚染土の想定量は？

私は「新たな汚染土の想定は最大でどのくらいの量か」と質問しましたが、区は把握していなかったため「都にたいし、汚染土の想定量および科学的根拠を問い合わせ、入手した資料を委員会に提出するよう」求めました。

企画部長は都からの派遣

ところが驚くべきことに、新任の企画部長は声を荒げて「都には問い合わせしない」と拒否したのです。

この企画部長は、4月に東京都から派遣された中島毅氏で、東京都総務局局務担当部長の職に就いていた方です。

私は「区が『築地市場移転事業を着実に行うこと』を都と合意した大前提は、豊洲の汚染土が浄化されることであることは区も認めている。汚染対策の進捗状況をつかみ区議会に報告するのは区の責務ではないか」ときびしく指摘しました。

区も進捗状況の把握を

私は、中島企画部長の姿勢を批判するとともに、土壌汚染対策工事における洗浄処理、加熱処理、微生物処理、地下水の浄化処理など6種類の浄化方法ごとの処理担当会社、処理する有害物質の種類、浄化対象とされる土壌の全体量、一日で処理できる量を把握し、今後、一ヶ月ごとに処理される土壌の分量などの進捗状況をつかみ議会に報告するよう要望しました。

小泉副区長から「努力する」旨の答弁がありました。

震度５弱以上の予想で「緊急地震速報」を自動で受信

「緊急告知ラジオ」５月から頒布開始

大きな地震や水害などが起きたときに、自動的に電源が入り、緊急放送を受信できる「緊急告知ラジオ」。昨年は、２千台の補正予算を組んで実施しましたが、申し込みが殺到し、約４千台申し込みの時点で打ち切りました。多くの方にご迷惑をおかけしたことと思います。

今年度は２万台の頒布を予定しており、区役所本庁舎、日本橋・月島の特別出張所で直接告知ラジオを５月、７月、10月の三回に分けて頒布することになりました。

ご希望の方は、所定の申込書（記名・捺印したもの）と区民であることの証明書（住民票、免許証等）と本人負担額千円を左記の頒布場所に持参してください。

１世帯１台です。

★５月の頒布日と場所

・５月９日（水）～12日（土）
　日本橋区民センター
・５月16日（水）～19日（土）
　月島区民センター
・５月23日（水）～26日（土）
　区役所本庁舎

○午前10時から受け付け、各日、先着５百人です。

詳しくは、

中央区総務部危機管理係へ

３５４６－５０８７

災害時における「正常化の偏見」

災害時に避難を遅らせる、あるいは避難行動に移させない「正常化の偏見」という人の心の動きを紹介した片田敏孝著『人が死なない防災』（集英社新書）は、虚を突かれた感じがします。著者は０４年から岩手県釜石市の危機管理アドバイザーを務める、災害社会工学が専門の群馬大学大学院教授です。正常化の偏見とは、「自分は大丈夫」と一生懸命思い込もうとする心の作用です。

例えば避難勧告が出た時、「自分は死ぬかもしれないから逃げる」と発想する人は少数ではないか。それは人間というものが情報を自分に都合よく解釈するからだ。交通事故で亡くなる５０００人に自分は入るとは考えないが、宝くじの当選者５０００人には入るのではないかと考えるように、と。

片田氏の災害教育の成果の一つとして、今度の大地震・津波で大槌湾近くの小中学校の生徒たちが、お年寄りを介助し、保育園児が乗ったベビーカーを押しながら懸命に避難した様子を紹介しています。

きっかけはグラウンドの地割れを発見したサッカー部員の「津波が来るぞ！　逃げるぞ！」の大声でした。みんなが駆け出し、訓練どおり避難所へ。がけ崩れに気づいてさらに高台へと逃げました。この小中学校はハザードマップ（災害予測地図）の区域外でした。だから片田氏は「想定」にとらわれず主体的に行動せよ、といいます。なぜなら「誰にとっても予想もしたくないことが起こること」が災害の本質だからだと。防災を見直すヒントになりそうです。

しんぶん赤旗12年４月10日付

「潮流」より

ご意見、ご要望など、お気軽にご連絡ください（３５３６－６３０９）

ブログもごらんください　志村たかよしワールド　検索